

教会学校だより

ま 播 かれた たね 種

The Eastern Diocese of the Orthodox Church in Japan

教会の「みどりの日」

日本では、5月4日は「みどりの日」という国民の祝日に定められています。この祝日はゴールデンウィークを構成する休日の一つですので、大型連休のうちの日という認識こそあれ、なかなかその趣旨にまで考えが及びにくいのですが、「国民の祝日に関する法律」に依れば、みどりの日は、「自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ」ことを趣旨とした祝日とされています。元を辿れば天皇誕生日が移動したもののとはいえ、新緑の眩しい季節に相応しい意義付けのなされた祝日と言えるでしょう。



ところで、実は教会にも「みどりの日」と呼べるような祭日があることをご存知でしょうか。その祭日は移動祭日ですので、〇月〇日と決まった日に祝うわけではありませんが、毎年ちょうど緑豊かな、自然の生命力溢れる今ごろの時期にお祝います。その祭日とは、聖大パサハ(復活大祭)から数えてちょうど50日目に祝う「五十日の祭」、すなわち五旬祭、またの名を聖神^o降臨祭と言います。

五旬祭/聖神^o降臨祭とは、ハリストスが復活を顕された日から50日目に、文字通り神・聖神^oが使徒と弟子たちに降ったことを記憶する祭です。このとき、使徒たちは聖神^oに満たされて様々な国の言葉で神の偉大な業を語り、聖使徒ペトルはハリストスの死と復活を力強く証しして、そこにいた三千人ほどの人々が洗礼を受けたと聖書は記録しています(聖使徒行実2章)。正に、五旬祭のトロパリで「爾は漁者に聖神^oを遣して睿智者と為し、彼等を以て世界を漁し得たり」と歌われる通りです。

正教会では、この五旬祭に緑色の祭服を着ます。また、日本ではあまり行われていませんが、聖堂に葉の生い茂った(夏の)木や枝を配し、まるで森の中のように聖堂を飾ります。これらの伝統は、「生命を賜ふ主」(五旬祭讃頌「天の王」)である聖神^oによって全ての命が新たにされ、養われ、育てられていることを私たちに教えます。ちょうど新たな命の芽生える春にパサハを祝うように、命の豊かさを感じられる季節に五旬祭を祝うのです。

国民の祝日である「みどりの日」は自然の恵みに感謝する日ですが、教会の「みどりの日」に私たちは、自然を超えた命の与え主である神さまに心を向けましょう。

司祭 ルカ田畑隆平

トピックス

- ◆奇跡について…p. 2-3
- ◆教会学校ニュース…p. 4-5
- ◆エッセイ…p. 6
- ◆しつもんばこ…p. 7
- ◆キャンプ案内…p. 8

奇跡について ～「しるし」を見る目をもとう～

司祭 ダヴィド水口優明

まずは、下の間違いさがしに挑戦してみましょう。これはカナの婚宴の奇跡の場面です。AとBには、八つの違いがあります（印刷上の色やシミなどは含みません）。

A



B



(答えは6 ページ)

カナの婚宴の奇跡

カナの婚宴の奇跡は、ハリストスが水をぶどう酒に変えた奇跡です。カナとはガリラヤ地方にある村の名前です。この婚宴が誰の結婚式だったかは聖書ではふれられていませんが、伝統的に12弟子の中のナファナイルが花婿だったと言われます。

さて、婚宴の途中で、ぶどう酒が足りなくなっていました。イイススの母マリヤは、その問題をイイススに相談します。イイススは、召使たちに、六つの石の水がめに水をいっぱい入れるよう命じました。そしてその水を汲んで料理長のもとに運ぶように言いました。彼らが命じられたとおりにすると、なんとその水がぶどう酒に変わっていたのです。

奇跡は「しるし」

これは、ハリストスが行った「最初のしるし」だと言われています。ここで「奇跡」が「しるし」と言われているところに注目しましょう。「しるし」とは「それが何か」に気づくためにあるものです。例えば、信号の赤は「止まれ」ということを表す「しるし」です。しかし、その「しるし」の意味を知らなければ信号を無視して走り去る人もいられるかもしれません。

では、ハリストスが水をぶどう酒に変えた「しるし」は、何を意味しているのでしょうか。

アフアナシイという聖師父は、次のように言っています。

「水の実質が変化し、ぶどう酒になったのを見る人は、それを行ったのは、水という物質の創造主であり主であると思うのではないだろうか。」

つまり、水をぶどう酒に変えたイイスス・ハリストスは、水を含むすべての自然を創造した神様なのです。なぜなら、神様は、いつでも「水をぶどう酒に変えている」からです。

水をぶどう酒に変えている神様

金ロイオアンという聖師父が次のように言っています。

「ハリストスは、水をぶどうの樹の中で変化させているのが、すなわち雨を根に吸収させ、その成長によってぶどう酒に変えているのが、彼ご自身であることを表すために、ぶどうの樹の中で長い時間をかけて行われていることを、婚宴の中で一瞬のうちにに行ったのである。」

そもそも、ぶどう酒は、ぶどうの実を搾って、発酵させて作られています。そのぶどうの実の汁は、もともと、ぶどうの樹が根からすいとった水です。つまり、水は、いつでも、今も、ぶどう酒に変わっているのです！

もちろん、そこには長いプロセス・手続きがあります。そのプロセスがあまりに長くて「自然」に見えるので、私たちは、それを当たり前のこと、と勝手に思っています。しかし、考えてみれば、いつでも「水」は「ぶどう酒」になっているのです。私たちは、そこに神の力が働いていることに驚くべきなのです。

奇跡とは

自然だと思っていたことを、プロセスを省略して見せられたとき、人はそれを「奇跡」と呼びます。パン五つと魚二匹を増加させて五千人を満腹させた奇跡も、麦を育て魚を増やして何億人という人々のお腹を満たしているのが神様であることを知る「しるし」になります。

この世には、あまりに長く、あまりに大きくて、それが神様の力によるものだということを見失われていることが、たくさんあります。いわゆる「奇跡」とは、確かに「驚くべき神の力の顕れ」です。しかし、「神の力」はいつだって、この瞬間にも、「顕れて」いる筈です。何億光年のかなたにある星が光を放ち、地球が回転し、空気と水と光があふれ、鳥が空を飛び、魚が深海を泳ぎ、猫が居眠りし、犬が走り、植物が育ち、微生物が増加し、人が人を愛し、人が人をゆるし、人が人を抱きしめること、それらはすべて、「当たり前」などではなく、神の力が働いている「驚くべきこと」なのです。

「しるし」を見る目

カナの婚宴の奇跡は、人として座しておられるハリストスはすべてを創造し摂理なされる神様である、ということの意味する「しるし」です。しかし、いわゆる「奇跡」が起こらなくとも、神の力の顕れとしての「しるし」は、この世に満ち溢れている筈です。今日、私たちがいただく食事も「しるし」です。明日、私たちが眠りから目覚めるのも「しるし」です。そして元気に教会に行ってお祈りできるのも「しるし」です。

その「しるし」を知らなければ、驚きも喜びも無視して、「忙しい」という名の闇の中に走り去ることになります。しかし、「しるし」を見る目をもっていると、神様への感謝と讃美の光の中で生きることができます。

教会学校ニュース

■札幌管轄

〔新入学、進学、就職モレーベン〕

4月10日(日)聖体礼儀に引き続いて、これから新しい毎日が始まる、子供達や青少年の成長と健康を祈願してモレーベン(感謝祈祷)が献じられました。みんなの輝く目、溢れる笑顔がとても頼もしく感じられました。

〔復活大祭〕

5月1日(日)の復活祭には23人ほどの子供達が参拝しました。久しぶりの子供達の顔もあり、随所に成長を見ることが出来ました。子供達が楽しみにしている、恒例となっている「卵さがし」ゲームを今年は天候に恵まれ、屋外で行うことが出来ました。卵には子供達がシールを貼ってきれいに飾ってくれます。大人が境内に卵を隠している時に、会館の中で子供達は待っています。隠しおわり、子供達を庭に集める時に、3歳の男の子が靴を履くことが出来ずに困っていた時、5歳の女の子が手伝って靴を履かせていましたが、その姿がとても微笑ましく感じられました。小さな子供から「人を思いやる心」を学びました。子供達は卵を探して走り回り、見つけては大喜び、自分の探した卵を両手に持って、カメラに向かって満面の笑みを向けていました。これからもみんなで喜びを分かち合いながら、楽しく子供達と過ごす時間を大切にしていきたいと思います。



■函館管轄

12月8日、函館盲学校の生徒4名が来堂し、福音書や十字架に触れたり、点字の聖書を読みました。外国の言語や文化を体験し積極的にコミュニケーションを図ろうとする学習の一環。宝座用福音経にレリーフされているハリストスと四福音記者の姿を手でなぞりながら質問する生徒たちの純真な姿勢は感動的でした。日本盲人キリスト教伝道協議会から送ってもらった点字聖書は手で凸凹を確かめながら声に出して読んでいました。後日届いたお礼状には、聖書に触れることができたことへの感謝の気持ちが綴られていました。



■釧路管轄

上武佐教会では 2010 年より毎年 12 月 23 日に「クリスマス・キャンドル・ナイト」と称してイベントを行っています。夕方、前庭に並べたキャンドルに点火して聖堂を開けると、新聞やフリーペーパーに載せてもらった案内を見た近隣の方々がやってきます。毎年参加するのを楽しみにしている親子連れも居ます。15 分程のモレーベンを行い、司祭講話、聖堂案内をします。終了前、仕事が終わってからやってきた信徒家族と偕にまた同じモレーベンを行います。「23 日は教会家族でクリスマス、24 日は家族でクリスマスを」と言っています。



■仙台管轄

4 月 3 日
(日)十字架
叩拝の主日

聖体礼儀に引き続いて、この春幼稚園、小学校、中学校に入学・進級する子供達と今月聖名日を迎えた方々を対象に、感謝祈禱を献じました。これから洗礼を受ける予定の赤ちゃんも参加して、聖堂は久しぶりに多くの子供達が集い、参拝者は彼らの健康と成長を祈願しました。



■一関管轄

管轄の教会で未成年の参拝は今のところ金成正教会のみで、大人が子どもを取り囲んでの教会学校となっています。復活祭の祈禱も親子で参拝、参拝者全員が役割をもち分担し行われました。先頭は小学校三年生の嘉花さん、後ろで十字架を持つ母親、父親は凱旋旗です。一般に少子化は子供達の忙しさに拍車をかけ、両親の負担も増えますが教会信徒等の「協力したい」意志を受け取って頂き参拝に努めて貰えるように。



■石巻管轄

石巻教会では、5 月 7 日(土)に子供たちが神父様と一緒に聖パン作りをしました。これは、以前から子供たち自身が「聖パンを作りたい！」と熱望(！)しており、それに応えるかたちで実現したものです。今回は一次発酵までを神父様が準備し、子供たちは型抜き～二次発酵～スタンプ押し～焼成に取り組みました。焼き上がりまで3時間近く掛かりましたが、頑張った甲斐あって、表面はつるつとしていて美しく、ふっくらと膨らんだ“良い”パンができました。子供たちの真剣な表情に親御さんも感銘を受けたそうです。

当初は聖パン作り体験のつもりでしたが、神父様曰く、「充分戦力になる」とのことでしたので、これからも「お手伝い」をよろしくお願いします。





寛容と信仰の自覚

司祭 ルカ田畑隆平



日本人の人口は 1 億 2700 万人ほどですが、文化庁の調査に依ると、このうちキリスト教の信者は 294 万人ほどとされています。それに対し、神道系は約 9126 万人、仏教系は約 8690 万人で、その他の諸宗教も加えると、日本人で宗教に所属している人の総数は、なんと 1 億 9 千万人にまで上ります。つまり、日本人は人口の実に約 1.5 倍の人数がなんらかの宗教に所属しているのです。

とは言え、この数字はあくまで各宗教法人が自己申告した信者数に過ぎません。ですから、例えば結婚を機に正教徒になった方が、以前に所属していた宗教から籍を抜いていなければ、当然両方の宗教から信者としてカウントされますし、そもそも日本の多くの家庭では、「うちは〇〇神社の氏子であり、〇〇寺の檀家」という、ダブルスタンダードな状態もごく一般的なことです。このような「信者数>人口」という矛盾した結果は、実は驚くようなことではないのです。

このことから分かる通り、多くの日本人は神道と仏教の両方の信者として育ちます。神社へは初詣に行き、お祭に参加し、お寺へはお彼岸に墓参りへ行ったり、お盆にお坊さんの檀家回りを受けたりします。彼らにとって神社との付き合いとお寺との付き合いの両立はごく自然なことです。とは言え、それは両方の宗教を信仰しているということではなく、むしろ、周囲の住民がみな同じ神社の氏子、同じお寺の檀家であるため、地域活動の一環として行われます。

日本人は無宗教だと言われることがあります。上の文化庁のデータに明らかなように、それは日本人が何の宗教にも属していないということの意味するのではなく、たとえ人口以上の人数が何らかの宗教の信者であっても、当の本人にはその自覚がなく、特定の宗教を人生の指針とはしていないということです。

日本人のこのような傾向を、「宗教への寛容さ」として肯定的に捉える人もいます。そのような人は、特定の宗教に帰依せず、付かず離れず緩やかに宗教と付き合う日本人の姿勢を、バランスの取れた宗教との付き合い方と理解します。確かに、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し見えない事実を確認すること」(エウレイ 11:1) ですから、宗教によって「見えない事実」の解釈が異なる以上、特定の宗教には帰依せずある程度宗教と距離を置いた方が客観的で分別ある姿勢のように思われます。

しかし、それでは結局、宗教から本来学ぶべきことを受け損じてしまいます。たとえ様々な宗教の教えに精通していたとしても、そこから自分の納得する教えだけを取捨選択するのであれば、それは元からある自分の考えに新しい表現方法を見つけるに過ぎないからです。

もちろん、私たちには理性がありますし、妄信を勧めているわけではありません。しかし、信仰とは自分ではなく神を信じることであり、教えを尊重し実践することを通して、自分の狭い見方から成長することが本当の学びです。

他宗教への真の寛容さとは、自分の信仰を蔑ろにすることではなく、むしろ真剣に信仰を生きるからこそ生まれるのです。



2 ページ「間違い探し」の答え

しつもんぼこ

なんでお腹の中で死んでしまう赤ちゃんがいるの？

Q. 親せきのおうちで、赤ちゃんができたのに、お母さんのおなかの中で死んでしまいました。神さまがいるなら、なんでこんなことが起こるのですか。

A. とてもむずかしい質問ですし、納得のいく回答はできないかもしれませんが、ごいっしょに考えてみたいと思います。

さて、おじいちゃんやおばあちゃんが亡くなっても、それは年を取ったから、長く生きて体をいっぱい使って体が弱くなったから死んでしまうので、もちろん悲しいことには違いありませんが、それでもなんとなく理解できますよね。きれいなお花もいつかは枯れてしまうように、せいっぱい生きたものが死んでいくのは自然なことです。ですから、お腹の中の赤ちゃんが亡くなると、「神さまがいるならどうして？」と思うのは当然のことだと思います。せっかくのちを受けたのに、赤ちゃんは何も悪いことをしていないのに、この世界に出て来られないなんてかわいそうだと思う気持ちは、大人になっても変わりません。

でも、本当の問題は、たとえそれがお腹の中であらうと、120才まで長生きしようと、どちらにせよ、「人間は死んでしまう」ということにあるのではないのでしょうか。みなさんは、「人間が死ぬなんておかしい」と考えたことはありますか？

確かに、お年寄りになって、体が弱ったから死ぬのは自然なことのように思うかもしれませんが、それは本当に「自然」なことなのでしょう。本心を言えば、私たちはだれにも死んでほしくないし、だれとも別れたくない。死や別れなんてない世界になってほしいと願っているのではないのでしょうか。

それでは、「本来人間は死ぬものではなかった」としたらどうでしょう？人間が死ぬのは自然なことではなく、むしろ、死は人間にとって不自然なものであると考えることもできるのではないのでしょうか。お腹の中の赤ちゃんに限らず、せっかく命を与えられたのに、いつか死ななければならぬなんて、不自然な、おかしいことだと思いませんか。

ですから、やはり問題は、お腹の中の赤ちゃんであれ、お年寄りであれ、「人は死ぬ」ということなのです。もちろんこの世界には素晴らしいこともたくさんありますから、それを体験できないことを残念に思うのは当然のことです。しかし本当の問題は、この世界が死に向かう世界になってしまったということであり、その世界を救うためにこそ、神さまはハリストスをこの世にお遣わしになったのです。

一つ、忘れて欲しくないことがあります。それは、その赤ちゃんはお母さんのお腹の中で確かに命を受け、私たちと同じ人間になったということです。残念ながらこの世での生活は短かったですが、しかし、神さまにとってはかけがえのない人間の一人となりました。神さまを信じ、天国を信じる私たちにとっては、たとえお腹の中で死んでしまっても、その子の命は決して無駄に終わったことにはなりません。なぜなら、その子は確かに生を受けたからこそ、天国で永遠に生きることもできるからです。（回答：司祭ルカ田畑）

日本ハリストス正教会 東日本主教区 北海道ブロック教会学校宿泊研修会

キャンプだホイッ! 18th

2016 in 上武佐

参加のご案内

日時: 2016年7月26日(火)～28日(木)
場所: 中標津 上武佐ハリストス正教会
北海道中標津町字上武佐

参加費: おとな 7,000円
こども 3,000円
未就学児 無料

参加のお申し込みは所属教会 または 下記担当教会までお申し込み下さい。

担当教会: 釧路ハリストス正教会
〒085-0832 釧路市富士見2丁目1番35号
TEL: 0154-411-0945 FAX: 0154-35-9119
E-mail: morioka.orthodox@gmail.com

企画: 東日本主教区北海道ブロック「キャンプだホイッ! 2016 in 上武佐」実行委員会

キャンプだホイ! 2016 in 上武佐

- 実施日 7月26日(火)～28日(木)
- 開催地 中標津/上武佐ハリストス正教会
北海道中標津町字上武佐
- 参加費 おとな 7,000円
こども 3,000円
未就学児 無料
- 申込 釧路ハリストス正教会
〒0850832
釧路市富士見2丁目1番35号
または各所属教会にお問い合わせください。

わくわく集まり、ドキドキ体験!
0～100歳までときめきキャンプ!!

2016年度 東北ブロック 日本ハリストス正教会 東日本主教区

夏季修養会 in 遠野

ワクワク集まり、ドキドキ体験!
0～100歳までときめきキャンプ!

七つの「ふれあい」を体験しよう!

2016年7月27日(水)～28日(木)

「神様とのふれあい」～遠野教会の会堂でお祈り

「羊(肉)とのふれあい」～水光園で遠野名物ジギスカン

「馬とのふれあい」～馬の里でエサやりなどの体験

「言葉とのふれあい」～伝承館で語り部の話を聞く

「自然とのふれあい」～水光園の釣り堀で魚釣り

「木とのふれあい」～ふるさと村で木工体験

「かっぱとのふれあい」～かっぱ川でかっぱあそび

日時: 2016年7月27日(水)から28日(木)
集合場所: 遠野ハリストス正教会
岩手県遠野市土淵町土淵10地割
宿泊所: たかむろ水光園
岩手県遠野市土淵町柏崎7-175-2

参加費: 大人 6,000円/子供 3,000円
未就学児は無料

申込み: 各所属教会、または 盛岡ハリストス正教会へ
締め切り: 7月10日(日)まで
盛岡ハリストス正教会
〒020-0114 盛岡市高松1丁目2-14
電話/FAX: 019-663-1218
E-mail: morioka.orthodox@gmail.com

夏季修養会 in 遠野

- 実施日 7月27日(水)～28日(木)
- 開催地 ・遠野ハリストス正教会
岩手県遠野市土淵町土淵10地割
・たかむろ水光園(宿泊)
岩手県遠野市土淵町柏崎7-175-2
- 参加費 おとな 6,000円
こども 3,000円
未就学児 無料
- 申込 盛岡ハリストス正教会
〒020-0114
盛岡市高松1丁目2-14
または各所属教会にお問い合わせください。